

スポーツ庁委託事業

令和5年度

ドーピング検査技術研究開発事業

シンポジウム報告



スポーツにおけるドーピング検査技術の新規開発及び国内におけるドーピング検査の課題等に向けた研究開発事業をスポーツ庁委託事業として2020年7月より受託している。本シンポジウムはスポーツ庁委託事業ドーピング検査技術研究開発事業における研究成果報告及び国内における本研究事業の周知を目的に開催。令和5年度に本事業の委託をしている5つの研究成果について発表が行われた。



期 日 2024年1月28日 (日) 12時30分～17時00分

会 場 東京大学福武ラーニングシアター

参加人数 49名

式 次 第

- 12:30～ **開会の挨拶** 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 会長 赤間 高雄 氏
- 12:35～ **ご挨拶 (ビデオメッセージ)** スポーツ庁 長官 室伏 広治 氏
- 12:40～ **研究発表** (座長) ドーピング検査技術研究開発事業 コーディネーター 鈴木 秀典 氏
- 16:50～ **総評** ドーピング検査技術研究開発事業 事業推進・評価委員会 委員長 秋本 崇之 氏
- 16:55～ **閉会の挨拶** 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸 氏

令和5年度ドーピング検査技術研究開発事業シンポジウム報告

1. 開会の挨拶



公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 会長
赤間 高雄 氏

ドーピングとの戦いにおいてドーピング検査技術の研究開発が日本においていかに重要か、事業の意図とこれまでの取り組みが語られた。

2. ご挨拶 (ビデオメッセージ)



スポーツ庁 長官
室伏 広治 氏

スポーツ庁におけるこれまでの国の取り組みを紹介され、スポーツ界におけるドーピングの現状、シンポジウムへの期待が寄せられた。

3. 研究報告



座長
ドーピング検査技術研究開発事業 コーディネーター
公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 理事
鈴木 秀典 氏

演題
01



筋肥大、筋萎縮に関与する骨格筋のアクトミオシン系の変化とアンチ・ドーピングに関する研究
学校法人藤田学園藤田医科大学 教授
土田 邦博 氏

演題
02



エリスロポエチン産生を誘導する薬剤および遺伝子多型の検出技術開発
国立大学法人東北大学東北メディカル・メガバンク機構 機構長
山本 雅之 氏

演題
03



高感度LC/MSを用いたペプチド関連物質の抗体非依存的定量技術の開発
国立大学法人東京大学 大学院 教授
楠原 洋之 氏

演題
04



マイオスタチン遺伝子を標的とした核酸医薬効果と骨格筋応答性の検討
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 室長
本橋 紀夫 氏

演題
05



メチルエフェドリンの中枢および末梢神経作用が運動パフォーマンスに与える影響に関する研究
学校法人日本医科大学大学院 教授
館野 周 氏

4. 総評



ドーピング検査技術研究開発事業 事業推進・評価委員会 委員長
秋本 崇之 氏

研究委託5組織では、すでに世界的にも評価が期待される研究成果が得られていること、今後の事業への寄与について期待が寄せられた。

5. 閉会の挨拶



公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事
浅川 伸 氏

世界へ向けた研究成果発信のサポートや、日本の医科学研究がアンチ・ドーピングへ寄与できる体制を維持するため、本事業の継続と必要性について語られた。

ドーピング検査技術研究開発事業とは

日本アンチ・ドーピング機構(JADA)は、令和2年度より『スポーツ庁委託事業ドーピング検査技術研究開発事業』を受託。本事業では、アンチ・ドーピング科学研究領域の特に基礎研究を中心に、国内及びアジア地域のアンチ・ドーピングに関する課題や世界的な課題もふまえて研究テーマを設定、外部有識者で構成された事業推進・評価委員会とJADA専門委員会である健康・医科学委員会の厳正なる審査の上、毎年、研究委託組織を決定している。また、本事業の成果をもって海外のアンチ・ドーピング科学研究助成事業等の獲得を目指し、事業を推進している。